

川西市立清和台中学校「1年震災学習」感想文

- ◎今まで被災者の方のお話は、テレビや家族ぐらいで、記者の方のお話を聞いたことがなくて、どんな感じなのか気になっていました。実際に被災者の方に会い、そのお話を世界中に届けている「記者」の立場、目線で聞くお話は、今までのお話とは違ったことを聞きました。また、三好さんのスライドショーを見て、本当に30年前に起こった出来事なのかと目を疑う写真や記事がたくさんあり、どれも本当に怖い状況でした。そんな地震が目の前で起こったことを想像すると、危険だと思いました。
- ◎今日、震災についての講演を聞いてみて、やはり震災というものは多くの人の命を奪うものであり、必ず起こってしまうものであるということ、地震だけではなく、噴火や猛暑もあり、どれも防ぎきれないものということが分かりました。また、防ぎきれないからこそ、次の世代へ伝え、被害をなるべく小さくするために防災をすることで、多くの人の命を助けることが出来るということを学びました。そして、次の世代が震災の経験を直接聞けなくなったとしても、当時の新聞を見ることで、震災の恐ろしさというものが分かると思うので、新聞は受け継ぐ必要があるものだと、改めて感じました。
- ◎命について真剣に向き合えた時間でした。地震も雨も風も水も土砂も、私たちが避けられないもので、「生きているうちに大きな地震は絶対経験します。」という三好さんの言葉は印象的でした。また、名倉さんの講演も胸に刺さりました。実際、阪神・淡路大震災を経験していない世代でも、想像を膨らませて、必死に自分の震災と向き合う意義を探っていたんだと思うし、若者を引っ張っていく人はこういう人であるべきだなと本当に思いました。「まさか」なんてことが決してないように、何事も自分事と受け止められるように成長していかないとと思います。でも人間は災害＝死と隣り合わせなんて考えず、対策を一生懸命してうまく共存していけるようになったら良いです。今やこれからは、災害の重みをしっかりと分かっていない人が多くいると思いますし、現に私もその一人なのかもしれませんが、多くのものを失った人達の想いを忘れないのがいかに大事か、今回のお二人のお話を聞いて学ばせていただいたと思います。
- ◎今まで大震災が起こった日などに震災学習をしたことはあったけど、大震災を経験していない立場からの視点で教わったことは、今回が初めてでした。同じ立場だったからなのか、これから大切にしないといけないことなどが分かりやすく、遺族の方々の気持ちもよく理解することができました。「地震に備えよう」とよく言われるけど、いつも他人事のように聞いていました。この震災学習で、もし地震が起きた時に生きれる確率を少しでも上げるため、何かしないといけないなと思いました。そして、今後は他人事として捉えるのではなく、自分のことのように考えて聞くことが大切だと分かりました。
- ◎三好さんが宿直勤務中に地震に襲われ、机の下にもぐりこんだ話を聞いた。少しずれていたら命がなかったと聞き、そんな経験をしたことがないので衝撃的だった。被害報道だけでなく、読者を励ます記事を書いており、新聞というのは、すごい力を持っていると思った。
- ◎本当に震災が起こるととても怖いことが分かったし、それで家族や大切な人が亡くなった人がとても多く、切なくて悲しいことだなと思いました。この地震でいろんな建物がくずれたし、神戸新聞社もくずれてしまい、いろんな情報を共有したりする新聞が作れなかったから、京都新聞の人と協力していくことは大事なことだなと思いました。
- ◎この阪神・淡路大震災で72時間の壁などの言葉が作られたことを知りました。この学習を受けて震災というものは本当に怖いし、いつ起こるか分からないから備えをしないといけないなと思いました。夜寝られなくなりそうぐらい怖くなりました。もしもの時のためにも冷静になり、何をすればいいかを考えていこうと思います。この震災学習をして本当に良かったと思っています。
- ◎「阪神・淡路大震災を伝える」ことについて学び、私が今まで知らなかった当時の被害などを知ることが出来て良かったです。新聞社は自分の生活が大変な状況の中でも「伝えよう」という思いを持っていたことが心に残りました。だいたいのことではなくて、詳しく正確な情報を取材していたことが、みんなにとって大事なことだと分かりました。そして、これからもずっと伝え続けて忘れないようにする事が大切だと思います。

- ◎災害知識というのを身に付けて、自分の活動を改めて、いつ起こってもおかしくない地震に備え、命を大切に、自分だけでなく、みんなで助け合い、これから大人になってからもその心を持って、自分自身を変えて、地震や災害に備えて、自分だけでなく、人を大切にしていきたいです。
- ◎阪神淡路大震災の怖さを、今まで以上に感じました。いつ地震が起きるか分からないので、防災はしておこうと思った。映像を見ていると、「地震が起こる数秒前までは何もなく平和だったのに」と思いました。地震は簡単にいろんなものを奪う、最悪な災害と改めて思いました。
- ◎僕が一番心に残っているのは、インタビューした人の言葉で、できるだけ変えずに新聞を作るということで、なぜかという、思ったように変えるのではなくて、そのままというのが心に残った。
- ◎小学校の頃より、いろんなことを知れて、いろんなことを考えられたので良かったです。亡くなった人たちの家族や友達に自分もそうなるかもしれない、もしそうなったら何も考えられなくなるので、取材に答えられた人は、本当に強いなと思いました。
- ◎地震で一番怖いのは予測できないことで、いつ起こるか、詳しく分からないから、今起きてもおかしくない地震に口ではなく、行動で対策することが大切だと思いました。
- ◎生で新聞記者2人からお話を聞かせてもらう機会は、大人になってもそうはない貴重な経験で、忘れずに大人になっても記憶に残していたいし、残り続けると思った。どこか他人事のように感じていた震災の話も、この学習で身近に感じる事が出来て良かった。
- ◎自分自身が震災を経験していなくても、みんなに伝えていくのが大事で、それを踏まえて周りの人たちは、自分の身を守らなければいけないんだと思いました。知る、備える、守るというのが、震災で命を少しでも失わない方法なのかと思いました。
- ◎三好さんのパワーポイントの写真やお話を見たり、聞いたりしていると、やはり震災はいつくるのか分からないし、ものすごく怖いと言っていて、それが写真を見ればすぐ分かる程のことでした。また、避難している人や困っていたりする被災者たちは写真を撮っていることが「ダメだ」や「なんで撮っているんだ」というように否定されたけど、撮り続けてくれた方が有り難かったのかなと思いました。撮り続けていなかったら、震災は怖いものということなどが他の代に受け継がれていないと思ったからです。
- ◎阪神・淡路大震災による被害はとても大きく、ものすごく恐ろしいものだと改めて知りました。それに地震はいつ来るか分からないものだから、今からもものすごく不安になりました。南海トラフやそれ以外の災害も、いつかはやってくる。その時のために今からきちんと対策をし、大切な人たちや自分の命を失わないようにしようと思いました。三好さんが言っていた、スリッパなども作ってみようと思うし、インターネットなども使って自分で出来る対策をしておこうと思います。名倉さんが地震のことを新聞を通して伝えているように、私も今日の話有谁かに伝えようと思います。
- ◎講演を聞いて、阪神・淡路大震災でどんなことが起こっていたのかや、遺族の思いなどを前より知ることができた。また、地震の恐ろしさ、怖さを改めて感じる事が出来たし、いつ地震が起こるのか分からないことを感じながら生活していかなければならないんだなと、新しい気づきがあった。
- ◎写真を見たり、お話をお聞きして、震災の怖さを知りました。心に残ったのが、名倉さんのインタビューに答えてくれた方の言葉に付け足したりしないで、そのまま記事を書くことを大事にしているという話です。ありのままの話を伝えていただいているんだなと思いました。娘を亡くされたお父様のお話も心に残りました。ガラスが刺さっている足で壁を必死に壊して、歯もなくなって娘は死んでしまっ、本当に悔しい辛い思いをされたんだろうな・・・と思います。本当に震災は怖いものだなと思いました。

- ◎記者の仕事はとても素敵で、すごい仕事だと思います。人に伝えることはとても難しいことだけど、それによって誰かの気持ちが動いたり、大きければ社会、世界が変わるかもしれないなと思いました。だから自分もまず家族のみんなに今日の学習を伝えていきたいと思います。
- ◎私は阪神・淡路大震災を経験していないからあまり分からないけど、母に聞いてみたら、母は当時学生で大阪に住んでいたから、家が壊れたりはしなかった。食器とかが落ちて、電車が止まっていたと言っていた。母が活着ているから、今、私がいるんだなあとと思った。テレビなどで数十年のうちに大きな地震が起きるなどと専門家が言ったりして、本当に地震はいつ起きるか分からないから、対策とかしっかりしておくことが大切だと思った。
- ◎名倉さんも言っていたとおり、災害の話を聞いて、見てそれだけでなく、自分がその立場だったら？と想像し考えることで、より怖さなどが理解出来たりして、防災につながるということが分かりました。三好さんが共感する力が必要と言っていたのも、とても納得で、周りのことで片づけず、その人に共感し、それを行動に移すようになりたい。これは災害の時のことだけでなく、いろんなことでもそうなので、意識して何事も取り組みたいです。
- ◎地震など大きな災害が起きた時は、ガス、電気、水道などが止まり、生活がとても不便になる。たくさんものが止まってしまう、生活に苦しくなる人々がたくさん出てくる中で、自分のことだけを考えず、周りの人と協力し合い、共感し合うことが大切なんだと思いました。三好さんや名倉さんの話を聞いて、災害が起きた時、家が倒壊したり人が倒れていたり、普段見ない光景がある中で、どれだけ冷静に行動できるかで身の安全が取れるかどうかが決まると思いました。改めて災害の恐ろしさを知りました。
- ◎三好さんは宿直勤務で、たまたま宿直室にいなかっただけで、もし宿直室にいたら死んでいたかもしれないから、たまたまで人生というのは変わるのかと思いました。阪神・淡路大震災がどのくらいすごかったのかは、映像や言葉でしか知ることが出来なくて、体験することは出来ないけど、神戸新聞の本社が全壊したといった被害を聞いて恐ろしいと思った。
- ◎実際、自分は東日本大震災もまだ生まれていなかったのだから、大きな地震はあまり体験していません。でも、小学2年生くらいの時に登校中に震度5弱の大阪府北部地震を経験しました。まだ2年生だったから落ち着けなかったのかもしれないけど、ずっと焦っていました。その時は旗当番の人がいたので大丈夫でしたが、もしいなかったら、自分は正しい行動が出来ていたのかと想像します。今考えれば、正しい行動は出来ていなかったらと思う。なので、学校でする避難訓練や地震が来た時の行動をしっかり見直そうと思いました。「まさか」とは言わずに、いつ来るか分からない地震なのだから、もしかしたら明日来るかもしれない。1時間後に来るかもしれないと考えておこうと思います。また、三好さんが言っていた、家族で集まる場所も決めておこうと思います。南海トラフはいつ来るか分からないので、しっかり対策しておこうと思います。
- ◎最初にドラマを見て、あんなに平和だった神戸が地震によって一瞬で壊されたということがとても感じられました。改めて地震の恐ろしさを知って、自分を守るためには地震へ備えないといけないなと思いました。新聞記者の方たちが地震について私たちに新聞を通じて伝えてくれているのだから、地震のことを忘れてはいけないし、守るために行動していかなければならないなと思いました。
- ◎三好さんのお話を聞いて、「備えにゴールはない」というのがとても印象に残りました。また、名倉さんの三女を震災で亡くされたお父さんのお話がとても心に残りました。このお父さんのような家族を亡くしてしまった人が世の中にはたくさんいると思うと、とても悲しい、つらい思いをされてきたんだろうなと考えました。それでも、震災を知らない私たちのような人に震災のことを伝えてくれる人がいる、ということを残して、震災のことを考えていきたいと思いました。
- ◎名倉さんが「遺族の方とお話をする時に困ったことは何ですか。」という質問の時に答えていただいた、遺族の方と話すことは難しくない。でも、遺族の方に電話をして話をするのにOKをもらうことが難しいとおっしゃっていました。遺族の方に話を聞くのは難しくないということに、意外な気がしました。話をする時は、緊張するものだと思っていたので、印象に残りました。

◎新聞記者も地震でいろいろ大変だったと思うけど、地震の情報が入ってこないのが一番怖くて、記者はどれだけ早く情報を手に入れるか、安全安心な情報を送れるか、実際に地震を経験した人は正確な、安心安全な情報が入っていくうちに、安心できたんだろうなと思いました。身内の人を亡くして、本当に辛かった人も数えきれない人がいると思うけど、読者を励ます記事に救われた人はいっぱいいるんだろうなと思いました。

◎「悲しい事だから」という理由で、この出来事から目をそらしてはいけないと感じました。「悲しい」から全て見ない、知ろうとしないのではなく、少しでも知ろう、理解しようとする心が大切だと思いました。震災などの自然災害は、「いつ襲ってくるか分からない。もしかしたら今日、今この瞬間に襲ってくるかもしれない」と言っていました。なので、これからは三好さんの言っていた「知識をつける」ことと、防災バッグなどを準備するなどして、自分や大切な人が助かる可能性が高まるように、備えていこうと思いました。